次号より　美妙の子　戸隠山紀行　是は信越の堺にある有名の紅葉狩妖怪話に聞えた山で種々れ珍らしい話がありますゝ今年避暑を企てる人は是非見て或は案内としても宜しいものです

又同子の　頼朝の墓　といふ文章及び唱歌があります　●　其他又は　鎌倉紀行　●　色インキ使用の注意

伯斯風俗及び本號からの續稿を載せます

いらつめ第六十一號目次（明治廿三年七月五日）

●雜　纂……神經質＝新藥ハ根掛＝毒らつぎ古諺雜考（牛梅の種を嚙み潰すと天様よ惡くがられる＝点燈れ時食事れ箸を置かぬと阿化が出る＝食事中便所に立つと災難に遇ふ＝夜足袋を穿いて寢ると親の死目に遇はれぬ）……わい子
女子教育家に與ふる書……むつかしや
日本文華の杞憂
博議＝英才

●數　學……減法（二）……綠梅子
第五十九號解義

●通信紹介……六々部集＝大内香＝紋紗夏帽子＝金剛石胸飾＝婦人持金時計＝懷中鏡＝横山翻譯近世禮式書＝名刺入＝明治文學家れ寫眞＝英語女教師＝繪畫女生徒

●通信問答……實用的及美術的文章＝帝國大學規則＝小說添削＝無孔笛及絃琴＝オンスドラクマグラム相當匁數＝胸飾直段＝花溪女史の年齢＝いらつめの表紙模様＝獨逸語學校＝青梅、砂糖漬＝瀧に掛る利害＝耳孔掃除機械＝硼砂の味＝含嗽香水＝レモンを貯へる＝鳥居＝ラムネ＝鳩羽鼠色作り方＝ホーレル水＝汗おさへ＝文人書寫生書

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二拾九錢郵税共金三拾五錢、二十四部金五拾七錢郵税共金六拾九錢、三十六部金八拾四錢郵税共金壹圓〇二錢、四十八部金壹圓郵税共金壹圓二拾四錢〇別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六拾五錢郵税共金七拾五錢、五十部金壹圓六拾五錢郵税共金壹圓九拾錢〇並別兩製共前金領収の上で無くては差上げぬ事〇府内に限り無郵税〇毎月二回（五日及二十日）發兌〇金子御差し送りの手續きハ郵便小爲替なれば拂渡郵便局とある處に神田郵便局と記し受取人欄内に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事〇郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割増しなれは妨げ無い事〇見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領収の上差し上ます〇廣告料一行金八錢、割引無し

本號よも

神經質衛生法新藥根掛　古諺雜考といふ珍らしい着目の文章

女子教育家よ與ふる書　日本文華の杞憂　數學通信紹介

實用的及び美術的文章●無孔笛●量目相當數●瀧に掛る利害●レモンを貯へる●鳩羽鼠作り方●文人書と寫生書其他

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜纂

神經質

大たい抵ゝ人の神經質です。ことに婦人に於ては猶更です。癇といふのも、物事の氣に掛かるといふのも渾べて神經質であるから起れ事で、極言すれば反目して怨みをいだき合ふのも亦是から起すことがよく有ります。例を擧げれば數限りも無いこと、之とわが交際する人の中に見付けれも直に目に留まります。　一つは注意の肝要で、即ち衛生に心を用ゐれば生れ付きの其質もいくらか目立たなくなります。れはある癇持ちなどゝいふ人はよく下々の心得を御覧なさい。下々に載せたのは何れも有害なことです。

(一)肱枕で寐たり、又は横になッて頰杖で是を支へる事。
(二)首筋を究屈にする事。
(三)胸腹をつよくしめる事。
(四)胃弱、肺病、心臟痛、肝臟病などは神經病と密接の關係が有ります。
(五)濃い茶を飲む事。
(六)不規則に飲食を用ゐる事。
(七)過食する事。
(八)澱粉質、野菜質のものを過す事。
(九)不消化物、又は油濃いものを用ゐる事。
(十)齒のわるい事。
(十一)湯に入らぬ事。
(十二)柔かい毛の股引をはかぬ事。
(十三)体操を行はぬ事。

以上の不養生を避けるやうにし、夏は海水浴でもし、食用には牛乳、玉子などを用ゐるが宜しいです。　砒石は甚だ神經質に適した良藥ですが、是は醫者の指揮を經なければ爲りません。

新藁の根掛

先頃新わらの根掛が流行する趣をある新聞に載せたのを見て他の婦人に關する發行物の内にも之を事々しく書き記したのがいくらも有りました。　其趣を見れば今茲に至ッて新わらの根掛がさも〳〵新に行はれ始めたとも言ふ体で、餘りと言へば馬鹿らしい至り。新わらの根掛は例年其時期に一寸あらはれる丈もはや人も何も知り切つた事、ぐづ〳〵珍らしがるに及ばぬ事です。　其樣なことなら新聞雜誌の報知を待たずともいらつ先方ハ既に先刻御承知です

古諺雑考　　なゝ子

西洋で十三人の會食を忌むなど云ふやうに日本でも今日に至るまで色々の言傳へが有りまして、夫に背くと害があるとか、罰があたるとか言ふことが隨分多く、ことに地方などの話しを聞きますとそれは〳〵中々大變に有るものです。　たとへば人の手拭をつかふと其人と愛想づかしよあるとか、人の楊子を用ゐると其人と喧嘩よあるとかいふ類の言ひ傳へはわたくし共はじめ幼い時から耳よした處です。今氣が附く毎にそれを蒐め、其いはれのついた原因を段々聞き合せたり何かして取調べました處、これらの言ひ傳へは大抵、道理の有ることもゝわかりました。　それを名其大略とこゝに載せて見ましやう。

第一　生梅の種を噛みつぶすと天神さまに惡まれて手蹟の上らぬ。

是は昔の手習子などを戒めた言葉で、一理あります。前号のいらつめにも見えましたが、生梅のまだ熟さぬ内には其種がよく固まりません。それで種の中には青酸と云ふ極めて人体に毒な汁があッて、もし其種の柔いに任せ、がり〳〵噛みつぶして其種をつぶすと中から青酸が流れ出し、それと飲むため即ち梅の中毒を起します。梅の中毒は隨分恐ろしいもので、手おくれにあると生命も奪はれます。種を噛みつぶすなと戒した昔の諺はこの注意から起つたのです。

第二　点燈の時食事の箸を置かぬと夜中にあッて阿化が出る。

前面で燈光をつけて居るものが有り、其時丁度食事の際であッて、夫だのに箸を置かず、平氣で食べつゞけて居ると阿化が出るといふ譯です。何が無し、一寸箸を置いて燈光のつくのを待ち、夫から更にまた食事に取りかゝれといふ意味です。是も一寸した人は笑ッてくだらぬ事と言ひますが、点燈の時は言ふ迄も無く四邊はくらい、其あたりの闇い處で盲さがしに食膳に向つて居れば誤まッて魚の骨を知らずに嚥込むか知らず、それに第一あかりの付く間も默ッて待ッて居られぬとはよく〳〵の不品行と示そもので、即ち上のとほりに戒えられたのです。

第三　食事中に便所に立つものは不慮の災難に遭ふ。

是も前と同じく、食事中よ便所に趣くのは不品行不作法の至りで、尤もにくむべき事です。　そのやうなものは不慮の

災難にあふとは矢張り威しと以て此不行狀を戒しめたものでつまり心學上の注意です。

第四　夜寐るのに冬でも足袋とはいて寢ると親の死目にあはれぬ。

親といふからには壯年の人は血氣もつよく、よしや冬にしろ足に病なぞ無い以上は足袋などで熱させるのは却ッて毒です。あたり前に寐衣を着て、そして大抵ほどよくして置くのが衛生の本意です。ことさら足袋なぞの不潔なものを去らせて寐るのは不周到の至りで、即ち之を戒しめたものです。親の死目に逢はぬと言ッて威した上は最早親の無くなッた老人なぞは穿いて寐てもいゝ譯で、即ち是にも道理が有ッて、親の無いものの多くは其身の既に餘程の煖和を要せる年頃ですから、若いものと違つて兎角足袋なと穿いても宜しいのです。

毒うつぎ

野又は河原に多く生へる毒うつぎの實は甚だ美麗なるゆゑ子供なとは之を食べ恐ろしく中毒せる者が毎年多い事です。今其實の生る時候ですから子を持つた母御なぞはよく〳〵御注意なさい。

女子教育家に與ふる書

左の一編ハ或地方の教育家某の女學の方針に付ての尋問に對し社友某氏が之に答へられた手紙ですが女子の教育に從事せる方々の參考にもならうとて茲に掲載します

記者識す

拜啓然者芳翰披見仕候愈御清適教育之爲益御勤瘁之趣國家の爲賀上候扨女學の方針に付愚存御下問相成候へ共御承知の通經驗もなく學問もなく別段御參考に相成候程の意見を貯申さず候乍去久敷輦下に罷在候事故西洋歸りの友人の話も聞かぢり都下女學生の平素とも見聞仕候事も有之候へハ聊なりもと塞責に申上候万一御參考の一助にも相成候ハヽ望外の至に御座候或友人の話に英國は我國と交通の諸國の中に就ては其國体最好く我國と似寄居候先づ上には數百年來の舊王家を戴き其下には貴族あり又其下に四民あり四民の中にも紳士と平人と有之候而秩序は整然と相立居申候二百五十年來政治上の大變迚は無之隨て社會のまとまりよく社會の撿束は其力甚強く禮式作法より日常瑣事に至るまで貴族はかくすべし紳士はかくなさゞるべからずと誰極めるともなく定り居候由にて貴族にして式作法に違ひ候振舞有之候ハヽ忽ち同列の口の端に乘り

列て貴婦人達の仲間よハ持てぬ事と相成候由甚敷に至りて
は社會の制裁ハ政事上にも其勢力を及ぼし候例ハ毎々有之候
事よて近年彼名高きチャァレスヂルク氏の艶罪の如き取留も
あき事實あれども一旦ぱつと世上の噂と相成候ては最早取返
しのあらぬ事よて汚行ありとれ評判は上流社會に刺激を與
へ遂よはヂルク氏をして政治外に放浪せしめしのみならず英
國の社會に居たゝまらず海外に屛息せしむるに至りし事は御
承知の至よ御座候全体英國民は政治上よは世界無比の自由を
得候も惡意を挾まず語不敬に渉らざる限りは現政府の處置を
批評するも一個人の私行を批評するも甚自由に御座候乍去
其批評よして不法外あらば法律上の制裁を待て始めて之と救
正せず社會の撿束先づ其口と緘して開かざらしむる勢よ御座
候其故或人の評に凡世界中英國程政治上自由ある國なく又英
國程社會上窮屈ある國なしとは穿ちたる評に御座候畢竟社
會の撿束は政治の自由といへる遠心力を引止むる求心力とも
申すべきか此遠心求心の二力互よ相制して英國社會の動機は
圓滑、運轉して滯らず英國民は此中に無上の幸福を享け居申
候之に反し佛國にハ此究屈ハあく故に佛民には常に危激の言
論多くして社會ハいつもグラグラ致居候然らば英國社會をし

て此撿束力と生ずるに至らしめしは何物ありやと穿鑿いたし
候事肝要よ御座候是も前にも申せし如く誰極めるともなく數
百年の間に養成致候英國社會の好尙禮法かと存候誠に近年ふ
至り一層其勢力を增加致候は女子の地位高まり候事其大原因
と存候畢竟社會の好尙禮法維持進渉致候は多くは女子の
職分に御座候故に女子の地位高尙よ相成候ハヽ隨て其勢力增
加いたし候譯よ御座候乍併是ハ外國の話我國の有樣ハ如何と
顧み候ハヽ洪歎の外無之候我國にては社會の撿束力ハ微々否
皆無とも可申敷政治上の勢力ハ常々社會を蹂躪仕候人苟も政
治上よさへ勢力有之候ハヽ其內行は如何にても社會よてハ之
を咎むる丈の勢力即撿束力無之事は申さず共御承知之通に御
座候新聞紙發行巳來政治家の內行に付ての記載は此事實の報
告にあらざるハあき事も御承知の通よ御座候近頃賄賂事件と
か艶聞訴訟とか申事始まり候に付きては天保度の若衆は世も
早末じや抔と愚痴をこぼし候へ共私の考でハ此等事件の表沙
汰と相成候は畢竟社會撿束力の萌芽かとせめてもの思遣に
存居候賄賂も艶聞も是ゟ始まりと申譯にハ無之兩三年以前迄
は斯樣れ事ハ不斷の事よ候ひしを今日にてハ社會れ人々之を
咎め候より言ひ掛けられ候當人は否やでも應でも賄賂ハ取ら

ぬ艶聞は譃ぢやといふ事を政府にて証明して貰られねば外聞が悪くて泣寝入に黙止候ては世間に顔出しもならぬ事と相成候へばこそ此事件も起りたるなれ此外間が悪いと申は社會に撿束力のあるといふ証據に御座候全体我國は三千年來の舊國でありながら社會の撿束力何故微々たりやと申に是は別段の仔細候はず何れの國にても政治上の大變革有之候はゞ社會の組織秩序は土崩瓦解の有様と相成候我國は舊國とは申ながら維新の大改革にて徳川氏三百年間に養成いたし候社會の好尙風儀は全く打破せられ申候維新後日尙淺く舊好尙風儀は己に打破せられ新好尙風儀未だ起り不申今日の社會は實に亂調の極度に御座候故に今日の社會を以て徳川氏治世の社會に比すれば其撿束力の多少は申すまでも無之候徳川氏治世には其時代を調和するに足る丈の撿束力は有し居候ひき其一斑を申さば武家町家百姓には夫々定まりたる分限風儀ありて亂すとなく武家は武家らしく町家百姓は町家百姓らしき處あり若し武家にして町人の眞似をし町人にして武張つた事をいたし候へば社會にはかやうの人と歯いたさず又風俗も整然と定まり居申候武家平人の風俗は判然たりしは勿論婦人の風俗に於ても劃然たりしその由にて武家の内人町家の妻女、娘、小間使、御婢に至る迄衣服の生地色合摸様髷の結様より履物は種類に至る迄一々定まりたるものに候ひしに維新後社會瓦解して全く婦人の風俗等は帯解ひろげと申有様にて娘やら藝者やら孃様やら下女やら風俗は上より一見して鑑定すると六ヶ敷様に相成申候是等は瑣末の事は様には候へ共其實は社會の墮落は是等の事より萌し申候唯是等外貌の上にミあらず婦人の覺悟も社會の瓦解と共に無頓着と相成申候維新前迄は如何なる婦人にても苟も當時に所謂教育を受けたる以上の者は貞女不見二夫といへる大本領を服膺いたし候て何事は起り候ても此本領に訴へて覺悟を定め申候然に瓦解後は女大學は説も不條理なりと一概に打破いたし候へ共さりとて之に代はるべきものをあてがひ不申候故今日の婦人貞逆は時には如何なる標準を便りとして覺悟を定め可申哉女大學の説婦人は心を支配いたし候時代には不貞の行有之候婦人は其社會に容れられざりしも今日にては社會は撿束は未だ不貞は婦人を社會外に放逐するは力を有せず先斯様に社會を觀察仕候へば今日程危險なる社會は無御座候さりながら斯様に申候迚徳川氏時代は風俗を今日に復舊せよべし女大學は説に間違なしと申には無之唯風俗定まらず本領定まらざる社會は危險を述べし迄にて無論風俗は

時世と共に移り可申事に御座候然らそ今日こそ風俗も定らず本領も定らね百年と貳百年と經過仕候へハ自然ょ一定いたし候時節到來そべし迚打捨置可然歟此迄殺青家の最注意すべき事歟と存候　（下略）

日本文華の杞憂

むづかしや

むづかしやハ名のとほりれ屁理屈好き、都々逸あら文句入りといふ處ですが、御本人ハ最も氣のいゝそれそそれそ君子で、氣に入らねもれハ打ちてそすが好き。今度いらつめの御同業の雜誌日本れ文華に氣ょ食ハぬ處が有つて生意氣に言文一致と洒落込み、之をいらつめ編輯局へ差し出した處野暮あ記者どのこんあ不理屈れ言文一致を書かれてハ乃公れ名譽に關そるナンカンて大目玉、夫のら些しづゝ朱で直したつもりで潜りぬけて此樣にもぐり込む事と爲りましたが、猶此後とも六かしやそいつ何時現れるか知らず、讀者諸嬢ハ此時にハ看ぬ方が宜し、其故ハ氣もちが惡くなる事請合といふ譯で

さてそや日本の文華さま、毎度あがら天上界ょ栖むやうな御社說にハむづかしや敬服の至り、主筆どれハ誰か知らねが何でもえらい大哲學者と見たハ僻目か、之と彼是言ふハ天に向ッてれ唾とやら、淵ょ臨んでのヌタとやら、どうせいけぬにハ知れて居れどまづ思ひ切ッて野鐵砲を放して見れバ此間れ何號だか、「文學界れ秋の」と言ふ論文、あれよハ眞底感服仕まつッた。　何さま高尚あ天上界大哲學者れ所論ハからいふ物かと思ふと淚もこぼれる。何だッて記者ハ今日れ文學界を秋と評し、本年本月ハ政治熱が盛んで文學者の氣も之に奪ハれると書きめさッた。　やれ〳〵御推量れよろしい事。但し六かしやハ些不服で厶る。　如何にも今日ハ古陶器屋の囈言れやうょ世れ中ダセイヂで持切ッてハ居る。しかし其政治れ淚が文學者と埋沒したとハ一圓合点がまゐらぬ。　まづ今日れ文學者と言へバ指を屈して數へても見られる、其中誰が政治ょ奔走しめされたか。　いでや文華の記者どの、其實例を擧げたまへ。　鷲峯の月れ朧上人が撰擧さわぎを書いたが、あれハ文學者として書いたので厶らう。　美妙齋どのが政治演說を始めたといふ話しも聞かあければ、紅葉山人どのが示威運動しるといふ噂も無い。今日の處どれ文學者が政治熱に捲き込まれたで厶らうか。　それを何ぞや事々しく文學者がさも文學の本領まで忘れて政治ょ關そるやうょ書かれたとハ近頃麻布れいたりで厶る。　六かしやれ盲碌眼れ故か知

らねど、中々今日れ文學者のそんな浮氣なもれでハ厶らぬ。是は六のしやの實際諸先生と交際して實見した事で厶る。詩經とやらの本文に「他人有心……」何とか角とか書てあるげな、事に因ッたら文華記者先生の自身を標準に餘處までを忖度したではあるまいか、と、まア疑へば疑へもそる。七里ケッパイ忌はしい惡言、何の文學者の政治に……ヘンつのもねヱ。返答の有るなら敎へて下され。御待ち申す。

この處返答として言ひ拔ける手段の一つ有る。即ち文學者の意味は獨り小說家に限らぬといふ事あり。まさか文華記者の返答は此方から來まい。來たら猶面白いな。やれやれ、諸孃御やかましう。

搏議　或淑女の英國の氷夫に向ひ「何故貴方の國でも船れ代名詞に彼の女(she)と云ふのですか?」「それァ唯女の様に装飾が多いからです!」

英才　紳士の空を眺めて「あゝ良い晩だ」と云ふと傍に居た少女も打消して「貴方も『あゝ際限のない』とでも仰らなくちやア御門違ひでしやう!」

數學

減法　　綠梅子

第二　減法で開平法を行ふ事

これと至って分のない事です。先づ平方根を求め樣と云ふ數から2を引き、次に4 6 8 10……等順と追て引き去るので、もう引くことの出來ぬとなった處の其答を得る場所です。たゞ斯う云った斗りでハ御譯りになられ御方もありましやう。其分らん御方の爲めに一つ例を擧げましやう。

百六十九と云ふ數の平方根を求めよ。(解)169—2=167
167—4=163　163—6=157　157—8=149　149—10=139
139—12=127　127—14=113　113—16=97　97—18=79
79—20=59　59—22=37　37—24=13.　答十三個

此他の場合も右の場合と同じ樣に見出せます。

第五十九号解義

●質疑

(1)今連九數と9999とそれバ其自乘數と9999×9999です。で、9999の換りに10000—1を用ひても差支ありませんから 9999×9999=9999×(10000—1)=9999×10000—9999であることも皆です。題言に照して九千九百九十九の末位から一個を引けバ九千九百九十八で、之れに連零四個(連九數の位數)と加へれバ九千九百九十八の万

倍です。　又零を附けあい前ょ一を引いたのと零を附けてから一万個を減じたのと同等です。　然るょ前に説いた式で見れバ九千九百九十九の万倍即ち九千九百九十九万個から九千九百九十九を引〻べき筈を九千九百九十九の代りに一万個を引いた事になります。　それ故引き過ぎの一個を加へあければあらぬのです。

(2)答九十六分の一。　(解)題意の如く費した初めの殘りと $1-\frac{1}{2}$ で其次と $(1-\frac{1}{2})\times(1-\frac{1}{3})$ 其次と $(1-\frac{1}{2})\times(1-\frac{1}{3})\times(1-\frac{1}{4})$ とあるとして見れバ終の殘金を顯とせ式ハ

$(1-\frac{1}{2})\times(1-\frac{1}{3})\times(1-\frac{1}{4})\times(1-\frac{1}{5})\times\cdots\cdots$　即ち

$\frac{1}{2}\times\frac{2}{3}\times\frac{3}{4}\times\frac{4}{5}\times\cdots\cdots\cdots$

右の式で見れば左の端れ分母ハ其次の分子で、其次の分母は又其次の分子とあつて居ます。　でそうら左の端から何處で切つても其右の端れ分母即ち最大あ分母で一を除つた式ょなります。　で見れバ五分の一まで進めバ殘の金子と最初の金子の五分の一、十分の一まで進めバ十分の一です。　殘金と $192-190=2$　圓最初の金と百九十二圓故丁度九十六分の一 $\left(\frac{2}{192}=\frac{1}{96}\right)$ に相當しますゆえ九十六分の一まで進んだとと明白です。

(3)と紙幅あ足りませんから次号で御答へ致します。　其他諸學校の試驗問題の解義と府下の女學校で施行された今月末の試驗問題あども紙幅の都合で掲げません………緑　梅　子

通信紹介規則

(一)通信物品紹介文掲載を望む者は原稿と共に掲載料及保証料を送る事(二)掲載文に對し約定を望む人ハ其代金及保証料を送る事但し此保証料は相手の掲載文の保証料と同額の事(三)掲載料ハ五号活字廿七字詰一行金五錢宛保証料ハ一行五錢宛(四)雜誌發兌の十日前に受取つた申込ハ其号、十日後のは次号ゑ載せる事(五)紹介文申込後其取消請求が有ても領收金員は返さぬ事(六)紹介文掲載後約定望人が既に出來、そして掲載申込人が取消請求した時にハ双方の保証料を悉く最近のいらつめに換へて約定望人に返す事(七)約定望人が一時ょ二名以上有る時は約定申込書の郵便の消印の時刻で前後を定める事(八)既に一名の約定人が出來た時は第二の約定人には別段返事を出さず其代り第二約定人の保証料を最近のいらづめに換へ、其他の代金は三十錢以下一割增の切手又三十錢以上は爲替で返濟する事、但し返送料は其內から差引く事(九)約定望人が有れば本社は直に郵便で掲載申込人に其趣を知らせるに付き通知得次第掲載申込人は其品物を運賃自辨で本社へ送るべき事、本社では品物と引換に、代金を三十錢以下一割增の切手三十錢以上爲替掲載申込人に支拂ひ、直に其品物を通運便先拂で約定望人に送る事、是等の場合に於て保險を望む人は豫め其由を言込む事、但し保險料も自辨の事(十)約定出來の上は約定双方の人に各保証料を最近のいらつめに換へて返す事(十一)此約定は最も双方の誠實を尙ぶ事であゑ其間に双方共虛僞を挾んでは爲らぬ事、品物其他共本社では紹介するばかり其品に就ての責には一切任ぜぬ事、物品差立の荷造は成丈丁寧にして封印を打て置くべき事、本社では決して之を開封せぬ事(十二)其實物に接せぬ獨り誠實から成立つ約定であゑ申込人も其品物の体裁を眞實に記すべき事(十三)掲載の文には本人姓名を秘す事、但し本人から姓名宿所も掲載の命が有れば例外(十四)以上規則に因つて取扱ふ物品は普通の小さな物に限る(十五)以上諸條の犯則は悉皆沒書の事〇(一)奉公口の紹介周旋に對し紹介約定申込が有れは本社から其趣を本人に通知する事但し是は物品と違ひ其後の事に本社で干涉せす都て双方の勝手に任せる事〇番号の欠けて居るのは最早約定濟になつたのでゑ〇紹介掲載は三回が一區切

○賣拂

(十三)金玉出版社活版風來山人六々部集上下二冊　汚損少あし、二冊で賣價十錢…………下總

(十四)明治廿年製造大內香十二箱(箱ハ並形)、一箱につ〻特別減價金六十錢、十二箱一時に購求すれバ全金六圓五十錢…………西京

(十五)新らしい小見紋紗夏帽子數個、体裁朝鮮帽の形、一つ七十五錢づゝ…………東京芝

(十六)ダイアモンド二十六顆入り、胸飾り金剛石直徑八厘れもの六個、直徑五厘のもの二十個、石質上等無色、光力無双、臺ハ十四金、賣價百二十圓…………東京青山

(十七)婦人持時計、瑞西製、中蓋附、メッキ、然れども金ハ

厚し、クサリ純金、時計大きさ直徑一寸、極めて愛らしい形、吉沼の保險附、昨年買入、實價卅圓……東京本鄕

（二〇）懷中鏡、硝子製、緣なし、厚さ二分、長さ三寸、横二寸瑕なし、實價十錢……東京本所

（二一）中村敬宇題辭、横山訒譯、原書は英國倫郭カッセル氏著近世禮式書、交際には、是非必要な書物、表紙は赤クロース、紙數百二十頁、無記名、實價十五錢……伊豆

○買入

（一八）氣の利いた名刺入一ツ……大坂

（二二）今日の文學家（重に小說家）の寫眞、幼時のでもよし、至急……越後

○雇人

（一二）年齡十七歲の女子、小學校卒業生、然るべき保證人あり、諸禮を覺えたい志願、給料望無く……東京下谷

（一九）年齡十八歲の女子、良家の子、品行よし、溫和な性質 英語の敎師とある所存、給料一月五圓……東京神田

（二三）年齡十三歲の女子、小學高等科二年卒業、然るべき保證人あり、書工になりたい志願……東京本鄕

第五十八号所載宇治に遊ぶ記正誤　笹川はる子

拜啓此間御送り申候宇治に遊ぶ記をいらつめ第五十八号に御掲載被遊何とも御恥かしき次第に御座候同文中に甚だしき誤りの之れ有り候まゝ一寸御注意迄に申しあげ候

第五十八号の十六ページの上段廿九行目「此所より伏見迄十一里」之れは一里の誤りに御座候

同ページ下段七行目「雅名觀月橋俗名ぶくご橋と云ふ」之れはぶんご橋の誤りにて即ち豐後橋に御座候

同十三行目「第一茶第二糖……」之れは第二喜撰糖に御座候

同頁上段十一行目「織田信長公寄附、聽學の書の寫し、名号の釜」と之れ有れども之れは織田信長公寄附、名号の釜にて聽學の書の寫しは之れ又別に御座候

同頁下段十九行目、上陸して（此所よりは浮山事が有り升）之れは事に候

此他は甚だしくも之なく候まゝ以上丈けを……

通信問答

京太郎——前にいらつめに手紙書方を載せて物の數はきッぱり言へと言ひながら何故美妙齋氏の小說炭ぐろよ二三人といふ文句が有るのかとの御尋ね、一應御尤でそうが、實用的の文章と美術的の文章とは其間區別の有るのは當然の事です。實用的文章には言ひ盡くそのを尙ひますが、美術的文章では强ち言ひ盡くしをのみ尙ひません。　詩文に餘情を貴いです。之を手紙よ用ゐるのは間違ひです。　二者の相違は此点にあります（ない子）。

㈡帝國大學の詳細な規則書を記した書物は帝國大學一覽と云ッて前々から丸善で發賣して居ます。　古典科よ入る學程御尋でしたが、同科は目下廢止になりました。

花英好子——小說御完成の上は隨分添削をしても上げます兎に角作ッて御覽なさい（右美妙齋答）

おぼこ娘——無孔笛とは如何よも仰の通り孔の無い笛と言ふ事で即ち主よはまだ人情を解せぬ處女などの事を意味します。之よ對そる句で沒絃琴、是も同じ意味で、絃の無い琴と云ふ義です。徒然草に玉の巵底無きが如しなと言ふのと同じ類の形容です。

巴工友史——御尋ねのゴム製法は廣大でそから此欄内に言ひ盡せません。

笹川はる子——美妙齋主人が風琴調一節の前に作られた小說贋金剛石は少し仔細あって出板しませんでした。㈡一オンスは八匁、一ドラクマは一匁、一グラムは一匁の四分の一即ち二分五厘です。　㈢此間御送申しました浴衣地の包紙よ書いて在ッた「函谷關どころか……」と云ふ文字は誰が書いたか覺がなりません。　㈣新流行胸飾の下等は五圓位からで上等品は幾らも高いのが有ります。　㈤跡見女學校長花蹊女史の年は四十の五十位です能くは知りません。

齋藤はら——今号に表にして出す積りでしたが紙面の都合で載せませんから笹川はる子への答㈡を御覽なさい。

花田生——いらつめ四十四号へ美妙齋主人が書かれた紅墻記は矢張言文一致體です。此頃のいらつめの表紙模樣は片輪車と云ふもので嚴島の寳物になる模樣です。　㈢獨逸文學を研究そる善い學校と云ふのは東京よはありませんが、獨逸語學を學ぶ學校となります。　㈣青梅を砂糖漬にして色の變らない法は知りません。　㈤暑さ凌ぎよ瀧ふ打たれるのは餘り能くありません殊に虛弱の人などは先づ打たれない方が得策です　㈥耳の孔を手輕よ掃除そるよは機械で洗ふより他に良法は有りません其機械は醫療機械舖又は藥屋にわります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

腰女――硼砂と少し酸い様な味です。氷にも溶解します。(二)ハンドコロンを用ゐて效の分るのと先づ三週間位です。(三)梅の雪と既に發賣人がゐりますから其製法と言へません。(四)含漱香水を簡略に製するにはレモンと醋酸を水にまぜしたのと混せるのです。(五)硼砂を用ゐないでハンドコロンばかり用ゐても白色の效とあります。(六)レモンと無理に貯へれば貯へられますが汁氣が少なくなります。

花兄女史――鼾きと鼻れ工合うら發るもの故直はす法は有りませんが風邪をひいて起つたのなら其儘にして置いて治ります。(二)華表(即ち鳥居)は神社の區域を示す爲めのもので云はゞ境界の棒杭です。太古の時代から建て來たのです。

くちなし――ラムチの製法は隨分多いでそから簡略な法は御教へ申されますが實つて居るやうな美味の物を製するには機械が入ります。(二)鳩羽鼠の色を分ければ次の通です。十分中紺青三、紅一半、胡粉一半、黑一、其餘は水以上は繪具の分量です。(三)紺青、白、茶ゐ取合せのいゝ色は前のいふつ兌よ色の取合せ方として載せた中にわります。

ふつ子――砒石白色法と信ぜられぬと云ふ醫者が有るか知りませんが砒石の效の有無は化學書を見ればわかる事です。(二)ホドレル水を毎日一滴宛飲先で白色に效がゐるとの說は保證出來ません。(三)レモンの實は西洋八百屋と洋食店に有りませそ。(四)テンモンドの實とレモンの實とは全く違つた別物です。

KY女史――御地久太郎町朝日屋で取次をるレモン液が純粹のもので有るか無いか白色法ンバカス治療法に效が有るかないかは品物を見なければ分りません。(二)當時流行のもので文章が確正で女子の手本とする杯れ完全な書物は有升ん。

月女――韻文の作り方字句の制限などは唱歌作り方として前のいらつめよ載せました。(二)汗と止める藥には汗おさへなぞの云ふ實驗は有升が有害です。(三)いらつめは一回に二部づゝの發兌で毎月五日廿日の二回都合四部宛發兌するのです。

あま子――ワキガを治すに緑青を水に溶して附けるのは有毒な事です。(二)通信問答は一時二問以上寄せられても差支へありませんが餘り數が多ければ時によは其中ゟ一二は答へぬ事もあります。

笹川はる――文人畫はまづ慰み半分の物で今後の處迚も畫生畫かは及びません。(二)いらつめの發兌の高は云へません云つゝ處が多ければ盛としう思はれも少なければ又發はしく思ふ樣なものでそれからそれで答い致しません。

懸賞小說募集弘告

○題意

筋立――右側に中等の住居、紳士の宅とも見える――左りよ細路、左右草あぜ生ひ茂り、左よ當り木立澤山――時刻と夕方――月無し――時候と秋――細路の中程ゟ一冊の寫眞ブツクが落ちてある体――右側の住居の二階の窓から十五六の少女が愁顔とも笑顔とも付かぬ顔其寫眞ブツクを遙に見る体――其外よ人一人も無し――犬ぐらゐは出してもよし――其餘この題の注文に背かぬ以上はどう形容を加へてもよし――充分に讀者を感動さするのが專一の事

○雜事

○投寄の草稿中から一種を拔いて褒賞を呈する事○草稿はいらつめの大きさ及び字數よして大抵八ページ以上十二ページ以下の事○第一等賞品は**白縮緬**一反○賞品を得た草稿は**いらつめ**に掲げる事○草稿〆切は**本年八月**十五日限りの事○草稿は普通の懸賞文藝と違ひ、一字一句でも直さぬ事○原稿は楷書で一行廿七字詰よし各行の間よ些しづゝ餘地を置く事○此懸賞は男女に限らず應せられる事○原稿遞送の際郵税に不足等あれば決して受理せぬ事○原稿遞送の封皮よは朱で懸賞小說と記す事○應募者は詐らず自分の年齡を記す事原稿は成るべく紛失等の患と避けて送る事○原稿領收の上は別に領收証を出さず、いらつめで其趣を記す事但し應募者の姓名の頭字と所在地と月日とを出す事○以上の成規に背くものと沒書

○懸賞文藝新題（應募者心得は前号に出て居ます）

○第廿四回題　採蓮女（唱歌文章よ限る）　七月十日〆切

○第廿五回題　盆燈籠（何でもよろし）　七月廿日〆切

○第廿六回題　谷れ螢（文章）　八月十日〆切

○第廿七回題　源氏を讀む（何でもよろし）　八月廿日〆切

○第廿八回題　意中れ人の品定め（全）　九月十日〆切

右は男女に限らぬ或は夫、或と妻、いづれにしろわが望む理想の佳人君子の品定めと言ふのでそ。

○第廿九回題　子の生れた時の親心（全）　九月廿日〆切

○第三十回題　殘夢（唱歌文章に限る）　十月十日〆切

賞品は菊水摸樣の**金又は銀杯**一等賞の者二等三度の者三等六度の者四等十八度の者及び是と同じ資格に相當する者に限り賞品進呈

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

米國はくエッと氏れ額面畫

浮世の苦しみ

此畵の圖樣は三人の漁夫が一葉の小舟に乘つて暴浪狂風の内に魚を捕る有樣を寫した石版密畵です漁夫の苦心の顏色体格網の中に躍つて居る魚の影など實に非凡の出來です

右は二月十五日發兌いらつめ第四十二号れ附録として刑行したもれで間もあく賣切れとなつて久しく御望を欠いて居ましたダ今度額面畫だけ再版して一枚郵稅共金二錢で差上げます枚數ふ限も有る事でそから此際至急御申越あさらぬ御方は復たく賣切れとあつて容易に得る事ご出來ません

七月　成美社

每月一回發行　**雅學新誌**

第百貳拾壹號　明治二十三年六月五日發行

目次

◎宮中四月、五月御兼題
◎社題歌くさ〳〵　◎俳句
◎興歌くさ〳〵
◎枕れ艸紙講義つゞき
◎外國記行旅衣一かさね(承前)
◎蓮　故横山由清
◎歌ぬす人
◎社告◎廣告

本誌定價一冊郵稅共金四錢五厘
壹ヶ年前金四拾八錢

發行所
東京市神田區花田町壹番地
耕文社

小名木川　**綿布會社織物販賣**

天笠、綿フラチル夏冬唐棧紅、白、縞縮、等各種井ニ仝社ニ於テ本年始メテ製出シタルナヽヲ織ハ品質純良着用恰好ニシテ當夏流行ノ第一名ヲ博セシ新柄ナリ右多少トモ御購求ノ上益々御評判希望仕候府内ハ御報次第見本又ハ御注文ノ品物持參御用可相伺候間偏ニ御愛顧ノ程希願上候

仝社織物專賣店

日本橋區通三丁目四番地
布屋

小學生徒之友

●面白キ圖畫澤山アリ
●面白キ談話澤山アリ
●面白キ問話澤山アリ
●面白キ英語會答アリ
●小學生徒ノ作文アリ
●見本進呈(小學校へハ)

横濱市羽衣町　横濱文社

●毎月五日廿日二回發セ
●代價一冊三錢(郵稅共)
●六冊代拾六錢(郵稅共)
●十二冊代卅錢(郵稅共)
●代價ハ郵券代用ヲ諾ス
●第十八號六月廿日發行

道之友第四號目錄

◎論説
○婦人敎育……（華族女學校長 宮中顧問官）……西村茂樹
○歌のはなし……（文學博士）……黒川眞頼
◎法話
○貴婦人法話會に於て（前號之續）渥美契縁
◎演説
○英學の流行に就て……岡無外
◎小説
伽羅燼（下）……露伴
◎保育
○育兒法……（陸軍中將黒川男爵令孃）……黒川千春子
◎學藝
○和文學に就て（接前）……翠園女史
◎雜録
○愛敬（家道訓）○似兒草（故香川景樹）○杜鵑一聲△俳優と見物△似而非敎徒△古今二幅對△今樣淨瑠璃（無外生）
◎雜報
○小孃の發心○流行生感冒○二百年前の借用証文○悲哀ある同胞○往昔の米價○小栗栖香頂師○法城居士○外國人の信書
◎寄書
○記者の大人たちよそへめ參らす……雙樹樵夫
◎會告數件……◎廣告數件

發行所 愛知縣名古屋市下茶屋町番外 佛教婦人會

少年文庫

毎月十日發兌。定價一冊金八錢。六冊（半ヶ年）前金四十五錢。二十冊（一ヶ年）前金八十五錢。郵税一冊金一錢。

第五號は去る十日發行せり。其目次大略左の如し。
那破翁雪戰の圖（少年文庫）東京に遊學せんとする地方の少年諸子に告ぐ（學説）郊外植物學の栞（文藝）阿若丸歌○禁酒の文并引○ミュンフハウゼン男爵物語○秋の夕暮（叢談）友愛の龜鑑○大アレゴリスト○即位の齡○（For Young English Readers.○緒言○History of Napoleon.（雜纂）木曾の少年○獨逸學の再興○當時の文學○留の苦情○忌むべき報知○又○入學試驗の準備○共立學校少年會（餘興）一筆書よ付て○大寄席落語○滑稽小話（十二）○書探し○誰垂れたらう○考へ物（廿五）○一筆書（前號の答案○解者○面白きこたへ（書簡）信書四通（小記者）少年諸君の寄稿二十九篇○試歌二十四首

こども

毎月廿五日發兌。定價一冊金三錢。十冊金廿七錢。廿冊前金五拾錢。郵税一冊金五厘。

第四號目次
子供の心は水に似たり。
蜂と馬の體力。
問答。
長生の法。
奇童の話。
物理の手品。
猫の養子。
田舍の學生。（圖入）
書生の足駄。
獺の解剖。
生意氣學生。
書探し。（圖入）
筆の蕾。（七編）
孝子彌四郎の話。（圖入）
和尚の頓智。（圖入）
二百圓の咳。
萬年龜。（圖入）
和漢洋三少年。（圖入）
三蟲の話。（圖入）
日本の人口。
生徒の話。
汝に出づるものは汝にかへる（圖入）
巧妙ある料理人。
考へ物。（七）
字話。

發行所 東京府下北豐島郡上駒込村十九番地 少年園

第三回內國勸業博覽會審查官●農林學校敎授 農學士 古在由直先生肥料無害證明

一壜十五日分代拾二錢
一ダース割引申候

臭氣止おコきキな

醫科大學敎授 醫學博士 緒方正規先生下水實驗證明

此藥を使用に極手輕く大小便所芥ため下水ょ撒布する時は全く無臭となり他の臭氣なくそれが證據ハ博覽會塲內各劇塲等便處に實地試驗廣告仕候

臭氣止一切受負も可仕候又一壜にても配達申上候
御用の御方は御最寄の藥店にて御購求被下度候

此廣告文切拔御持參の御方ょ限り一割引

外出の節顏手足ょ塗れば日ょやけぬ事妙あり梅の雪は殿方ょても至極工合よろし

府內は端書にて御申越下されバ即日届けますよ

神田南神保町四番地本舗 おきなや

府下取次

下谷池端守田○京橋出雲町福原○京橋銀座一丁目佐々木○京橋上槙町安川○牛込築土尾澤○麴町四丁目小西○四谷御門外灰吹屋○本郷直砂町尾澤蒼生堂○芝西久保町博仁舍○牛込神樂坂上尾澤○神田小川町笠井○京橋佐柄木町上田○兩國吉川町古矢○下谷西黑門町理生堂○麴町三番町雨宮○神田小柳町森嶋○仝淡路町風雲堂○仝町眞壁○赤坂田町二丁目增田商店

地方取次

大坂南久太郎町旭屋商店○大坂淡路町日野商會○遠洲濱松連尺木村○兵庫港町庚屋中川商店○岩代若松七日町一木鈴本商店○備中倉敷林源十郎

いらつめ

第二年二號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY